

佐方小学校

【教科】総合的な学習の時間

【学年】第5学年

【育成を目指す資質・能力】思考力・判断力・表現力等

単元名

「米大好き大作戦」

【関連のある SDGs の目標】



【単元の目標】

自分たちの生活と米が密接な関係にあることに気づき、地域の方と米作りを体験したり、本やインターネットを使って調べた米の魅力を他学年や保護者、地域の方に発信したりする学習を通して、課題を追究し、自分にできることを考え、相手や目的に応じて、実践していこうとする。

【連携諸機関・人物】

・地域のゲストティーチャー

活動の概要

6年生から米作りの楽しさや苦労をインタビューし、自分たちの米作りをどう進めていくか、作った米をどのように活用していきたいかを話し合った。そこで、「米の魅力を多くの人に知ってもらおう。作った米を佐方オリジナル米として売り出す。」という二つのめあてを設定した。米の魅力を発信する活動では、インターネットを使って米の歴史や種類、レシピ等を調べ、新聞にまとめて掲示したり、米辞典を作ったり、他学年も楽しめるようクイズラリーを開催したりした。また、佐方オリジナル米として売り出す活動では、学校の田んぼで地域の方に教えていただきながら米作りをし、できた米で作ったポン菓子で保護者や地域の方に配る「米フェスティバル」を開催した。

★アピールポイント★

- ・活動の特色 ・授業展開や学習形態、教材等の工夫 ・地域人材、財産等の活用
- ・児童生徒の心を揺さぶる仕掛け ・他教科等との関連 ・ICTの効果的な活用 等

- ・導入段階で、6年生に米作りのコツや苦労、達成感等のインタビューをしたことで、米作りに対しての意欲が高まった。また、「佐方オリジナル米として売り出そう！」という単元のめあてを立て、児童が単元をどのように進めていくのかを主体的に計画立てていくことができた。
- ・地域の方を米作りのゲストティーチャーとして来ていただくことで、米作りについて詳しく教えてもらうことができた。また、昔の米作りで使っていた道具を使って脱穀等の作業をしたことで、社会科で学習した現在の米作りとの比較ができ、理解が深まった。
- ・米の魅力について情報収集し、発信する活動では、タブレットを積極的に活用して情報収集をすることができた。集めた情報を整理・分析する際は、相手が興味をもつ情報か、米を食べたくなるような魅力のある情報かを視点に、何を伝えていくのか選択していくようにした。発信する際は、各クラス多様な方法で伝えることができた。学校全体で行った「米クイズラリー」では、250人以上の参加があり、米の魅力を効果的に伝えることができていた。
- ・保護者や地域の方に向けた「米フェスティバル」では、自分たちで作った米を「ポン菓子」にして配布した。ラベルを工夫したり、各クラスの米ブースを作ったりして、いろいろな人と関わりながら活動することができた。



児童生徒の姿（○）、振り返り（◇）

- 児童が主体となって目標を立てたり計画したりすることで、活動中も「もっと～した方がいい」や「～してみよう」と自分たちで話し合いながら活動を調整していく姿が多く見られた。
- ◇地域の方や他学年等、これまでよりも多くの人と交流する機会を設けることができた。
- ◇次年度はより佐方の地域の良さをもっと生かした米作りの取組を考えていくことができるといったと思った。

